シェアサイクル実証実験について　自転車利用推進課　資料A-7

1．これまでの取組

（1）利用促進に向けた取組

○ 利用エリアを当初の3倍以上に拡大（約630ha→約2,000ha）
※10月からはJR豊肥本線沿線や県庁方面、3月からは子飼地区も利用可能

○ 自転車の増車や駐輪ポートの増設により回遊性向上　※R5.1末時点
※自転車は110台から550台に増車、ポートは42箇所から132箇所に増設

○ 途中で立ち寄りができる「一時駐輪機能」を付加
※普段使いの選択肢が広がり、市民の足としての利便性がさらに向上

○ 各種イベントで「90円チケット」を配布して新規ユーザーを発掘
※10～11月に開催された「くま博」では、約900枚のチケットを配布
※熊本城マラソンでは、試走や観光用に4枚/人配布



マラソンランナー特典



観光キャンペーン

（2）利用状況　〔利用料金〕普通自転車：6円/分、電動自転車：15円/分

○ 4/28～1/31の279日間で、利用者数84,008人、利用回数117,645回
※日平均301人、422回（最高は654人・899回<R4.12.10>）
※1日あたりの利用者数・利用回数は先行する名古屋市を上回っている

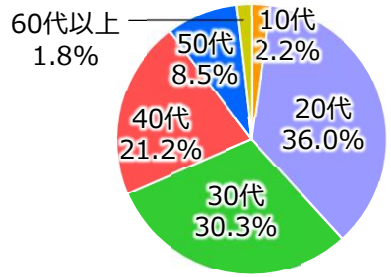
○ エリア拡大以降、利用者数・利用回数は倍増

○ 幅広い年齢層に日常生活での利用が定着（通勤・通学・買い物）

平均	9月	10月	1月
利用者数	260人	410人	493人
利用回数	366回	579回	671回

1.6倍　1.9倍

利用者数・利用回数の推移



利用者の年齢構成

2．今後の展開

（1）利便性向上に向けた取組

○ 駐輪ポートと自転車の密度を高め、利用エリアをさらに拡大！
→いつでもどこでも借りて返せる環境をさらに充実
→自転車利用が多いエリアや交通結節点を中心に強化

	ポート数	自転車数	面積	利用者数	利用回数
福岡市	594箇所	3,050台	10,700ha	2,228人	12,775回
熊本市	132箇所	550台	2,000ha	493人	671回

※R5.1実績(日平均)

○ 災害時の利用転換やインバウンド対応を検討！
→災害時の移動手段として活用、多言語対応のアプリやパンフレット

（2）来年度の取組 ～本格運用に向けて～

○ 利用状況の分析や実証実験の効果検証
→利用状況の集計やアンケート調査を行うことで、シェアサイクル導入前後の交通手段の変化や環境への影響等を把握し導入効果を検証
→検証結果を踏まえ、本格運用に向けた方針を検討

今後のスケジュール（案）

	R5.3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	4
効果検証		調査・分析 ／ 方針検討												本格運用
議会	●報告						●報告						●報告	